

「幼小いっしょに！のとまり会」

1 趣 旨

- ・年長児と小学1・2年生が親元を離れ、自分の力で生活する場を提供する。これにより、一人ひとりが自分のできることを積み上げて体験の幅を広げるとともに、子供の自己肯定感を高める。また、年長児と小学1・2年生が共に活動する機会を設定することにより、異学年間のかかわりが生まれるプログラムを精査し「小1プロブレム」に寄与する。
- ・保護者にとっては、子育てについて学んだり、保護者同士が情報交換を行ったりすることにより、子育てについて自信をもつ機会とする。また、保護者同士のつながりを構築する場とする。

2 ねらい

- ・異年齢集団による生活体験活動をとおして、低年齢期の子供たちが体験活動の楽しさを感じるとともに、集団行動や人とのかかわり方のルール等に気付く。
- ・保護者が活動を通して学び、自らの子育てについて振り返る。また、保護者同士がかかわりを持ち、子育てに対して思いを深める。

3 日 程

- (1) 期 日 第1回 平成28年9月 4日（日）日帰り
第2回 平成28年9月10日（土）～11日（日）1泊2日
- (2) 参加者 第1回 70名（子ども37名，保護者他33名）※募集 子供40名とその保護者
第2回 37名（子ども37名）※募集 子供40名
- (3) 研修内容及び講師

（○…子供プログラム，◎…親子プログラム，□…親プログラム）

第1回(日帰り)	第2回(テント1泊2日)	
【午前】 ○フードハントゲーム ○昼食(食堂の使い方・マナー) □トークセッション 講師: 沼田直子氏 (南加賀保健福祉センター所長) □昼食	1日目	2日目
	【午前】 ○鹿島の森探検	【午前】 ○テント撤収 ○朝のミッション ○朝食 ○のとで自然体験 ○カートドッグ作り
	【午後】 ◎ホットケーキ作り ○振り返り	【午後】 ○昼食 ○アップルパイ作り ○おとまり準備 ○夕食，入浴 ○テント泊



〈保護者同士の交流〉 〈フードハントゲーム〉 〈鹿島の森探検〉 〈テント準備〉 〈カートドッグ作り〉

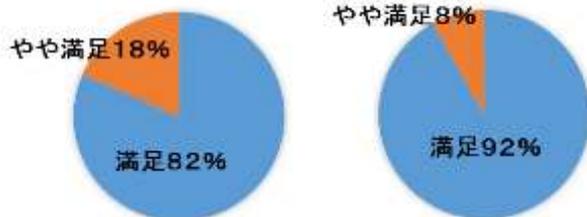
4 成果と課題

(1) 成果

事業評価を目的とし、参加者(子供) 1回目 38名、2回目 37名、参加者(保護者) 35名を対象に調査を実施した。年長児の調査は、保護者の聞き取りによって行った。

① 参加者の評価 (アンケートより)

事業に対する満足度 事業に対する満足度
【1回目】 【2回目】



2回目のアンケートより

<一番楽しかったこと>

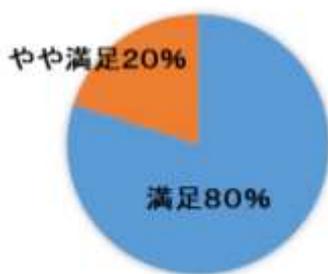
カートンドッグ作り	8人
テントづくり、テントで寝る	7人
アップルパイ作り	3人
鹿島の森探検	3人
ボランティアと遊んだ	3人
その他	13人

<一番がんばったこと>

テント立て	13人
カートンドッグ作り	7人
家族と離れて寝たこと	4人
アップルパイ作り	3人
鹿島の森探検	2人
その他	8人

② 保護者の評価 (1回目アンケートより)

事業に対する満足度



<自由記述より>

- ・一人っ子で過保護に育てていたけど、待つ姿勢、子供自身が育つ力を信じていくことが大切だと学んだ
- ・子供は親を許してくれている、親も子供を見守り、待つことが大切というお話で、毎日時間に追われ余裕がない日々を送っているが、もう少し心にゆとりをもって過ごしたい
- ・沼田先生の一言一言が子育てに対して安心させてくれるようで、今日この後からの励みになった
- ・イライラするのは自分だけじゃない。完璧じゃなくてもいいことを再確認でき、気持ちが楽になった
- ・周りに人とのつながりができ、まず自分が楽しく過ごせることが子供にもよい影響があるのだということがよく分かった

③ 考察

- ・年長児、小学生、男女が混合する4名でグループ構成したことにより、グループのお世話をする小学生、小学生の言うことを聞いてルールを守ったり、がまんしたりする年長児の姿が見られた。
- ・子供4名のグループに対し、ボランティアスタッフ1~2人としたことで、包丁や火を使う活動にも怪我や事故なく活動できた。
- ・2回目の朝に子供だけの活動を取り入れたことで、年長児、小学生共に団結する姿が見られた。これまでの友達同士の関係にプラスして、ボランティアスタッフに頑張る姿を見せようという意欲が見られ、ボランティアスタッフのかかわり方や良好な関係作りが重要である。
- ・保護者同士がかかわれるプログラムを設定することにより、保護者の子育てについての考えを共有し合う場を提供することができた。
- ・ボランティアスタッフにとって、泊を伴って幼児とかかわる体験は、普段の授業では得られない経験である。「2日目になると、小学生が年下の子の手本となれるような行動ができるようになってきた」「子供たちだけでできることが増えてきて感動した」といった感想が聞かれるなど、学生にとって有意義な研修の機会を提供することができた。

(2) 課題

- ・プログラムで調理が多かった。調理以外でもねらいを達成できるプログラムを検討する必要がある。
- ・ボランティアスタッフと、それぞれのプログラムのねらいや活動で留意することなどを打ち合わせする時間が短かった。可能な限りボランティアスタッフには前泊をお願いし、打ち合わせの時間を確保する。